

20年の思いを込めて歌う 胸に響く混声のハーモニー

「私たちの合唱を聴いて、音楽の素晴らしさを感じてもらいたい。聴者の皆さんと一緒に、いろんな曲を楽しみたいと思います」と笑顔で語るのは、今年結成20周年を迎えた混声合唱団「甲佐グリーン

ハーモニー」会長の甲斐道彦さん（岩下一区）。
本町の活性化のために、文化活動による町おこしを目指して合唱を始めたのが同団発足のきっかけ。緑川が流れ、緑豊かな本町に美しい和声が



甲佐グリーンハーモニー
こうさグリーンはーもにー

〔甲佐町文化協会〕

平成6年結成。さまざまな大会などで演奏を披露し、今年14日（日）には町総合保健福祉センターで「結成20周年記念コンサート」を開催。

響くようにという願いを込めて、『まっかな秋』などの作曲で知られる作曲家の小林秀雄さんが団名を名付けた。団員は約20人で、町内外の音楽祭など、さまざまな会場で演奏を披露している。
同団の指揮を務める左座守さん（下田口区）は「混声合唱は、ソプラノ・アルト・テノール・バスの4声で構成され、曲の表現の幅を広げるこ

とができるのが最大の魅力です」と混声の良さを紹介。「歌詞に込められた意味を意識し、聴いている人に言葉一つ一つが伝わるよう指導しています」と日々挑戦する。
結成当時から所属している大田和代さん（仁田子区）は、「みんなの声が合わさって1つのハーモニーになったとき、曲を自分ものにできたという達成感が味わえます。私たちが今までの活動で経験したことを歌に乗せて、たくさんの人に伝えたいです」と合唱の豊かな魅力に笑みを見せる。
今年14日（日）に町総合保健福祉センターで「結成20周年記念コンサート」を開催する。今までに演奏した思い出深い曲や親しみやすい歌謡曲などを披露する。左座さんは「今回の演奏会は、すべて日本語の曲を選んでいたので、幅広い年代の人にとって聴きやすいものと思います」と話す。甲斐会長は「最近では若い人が合唱を聴く機会が減っているのですが、ぜひ聴きにきてください」と音楽の優しい世界にいざなう。